

ミニ講演 本杉 香(明大前ピースメーカーズ代表)
～ 防犯ボランティア団体の取組～

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました明大前ピースメーカーズという防犯ボランティア隊の会長をしております本杉です。

この明大前ピースメーカーズは、今から 12 年前の平成 13 年に結成されまして、営々と活動を続けてまいりました。おかげさまで、かなりの成果があがっているなど自負いたしております。私の話は画面が出ませんので、目は瞑っていただいても結構です。耳だけお貸しいただきたいと思います。目を瞑ると眠くなってしまいますので、一つ眠らないようにお願いします。

明大前ピースメーカーズはどうして 12 年前に始まったのか、一言だけと申しますと、我々は明大前商店街という 300 軒くらいの商店の振興組合で成り立っております。毎年、消費者懇談会をやっております。平成 10 年、11 年、12 年とこの消費者懇談会におきまして、消費者から「生命の危険を感じるような社会情勢になっている。また財産の危険も感じる。」という話がありました。そうなんです。当時は空き巣やピッキングが大流行しまして、商店街でも 2 日に 3 件くらい空き巣に入られて被害に遭っているというような状況でした。

こういったことを聴きまして、これはやっぱり大変だ、何とか商店街が役立てることはないかと考え、とりあえず調査しようということで調べましたら、地元の明大前という所が大変なことになっておりました。

恥を忍んで申し上げますと、まず地元の松原小学校という 500 人くらいの小学校ですが、これがなんと 10 日に 1 回痴漢被害を受けているという校長先生からの直訴がありました。世田谷には 64 の小学校がありますが、「10 日に 1 回痴漢被害」、これは断トツのワーストワン。

それから明大前は松原一丁目から六丁目にかけて住宅街がありますが、世田谷で最も犯罪件数の多い地域でした。しかも「明大前」ということですから、明治大学の和泉キャンパスがあります。この和泉キャンパスを第一次安保闘争当時からある非常に過激な極左学生のセクトが占領してしまいました。これがまた主流派と反主流派に分かれて、お互い殺し合いをしているような状態で、今でこそ明治大学は入学希望者が多く、受験生日本一といわれていますが、当時はともかく殺伐としていて、これでは

商店街もとても繁盛できるような状態ではないというふうに我々も感じまして、平成13年の初めに「安全・安心のまちづくり」ということをコンセプトにして商店街の運営をしていこうとしました。

最初に何をしようかと考えたとき、とにかく交番がなかったんですよ。元々は交番もあったのですが、その安保闘争時代に明治大学和泉キャンパスの近隣にある交番を悪い学生たちが邪魔だということで焼き討ちしました。ですから、なくなってしまったんです。何とか作ってもらおうとしたのですが、警視庁にもいろいろと設置条件がございまして、「もうできないよ。」と宣言されてしまいました。

それだったら自分たちで交番（民間交番）を作ろうと思い立ち、平成14年の4月にできました。これが日本で初めての民間交番です。駅の改札口から大股で5歩くらいのところにできています。

その後平成19年に、明大前では民間も頑張っているから警視庁も交番を作らしようということ、今は本物の交番もあります。約30mくらい離れて交番が向かい合っていますが、お互いに上手く役割分担をして運営されております。

そのほか、平成13年の10月、このピースメーカーズの発足と同時に、朝の登校時の見守り、そして下校時の見守りに取り組みまして、約6か月間で痴漢被害ゼロになりました。その後すでに11年半となりますが、ほとんどゼロ状態を保つことができています。登下校中の見守りも平成13年10月時点では、日本で初めての試みだと言われております。そのとき、あいさつ運動も一緒に始めましたから、学校の見守り運動とあいさつ運動の、日本最初の活動となります。

平成13年10月、全国でどんな防犯ボランティア団体があるのか、警察庁とNHKに調査してもらいましたところ、1か月に2回やっている所が栃木と静岡にありましたが、我々は毎日のように活動しました。ただ日曜日だけは休ませてもらいました。日曜日は生活パターンが変わるので、空き巣や強盗も日曜日には活動しないということ警察から聞きましたので、我々も日曜日だけは休み、あとは月曜日から土曜日まで、現在も毎日のように夜間のパトロールもやっておりますし、また学校があるときには朝7時50分から8時30分まで、また下校時も午後3時から4時くらいまで見守りを行っています。

おかげさまで、安全・安心のまちづくりを目指した「明大前」は安全になりました。明治大学のセクトも我々の「内ゲバを見た。」という目撃証言から幹部の逮捕に至り、

大学内から排除することができました。今は大変開放された明るい大学になっております。

また、地価も上がりました。「犯罪のないまちが地価が上がる。」ということは、京都大学の不動産研究室が発表した事例ですが、1割犯罪率が下がると、防犯パロールをしていない近隣のまちよりも1.7%地価が上昇するという研究発表がされています。

我々の所はこの10年間で当初527件あった犯罪が10年目の一昨年には年間15件になりました。97.5%の犯罪減少率、これを1.7%で換算しますと、地価が約16.5%も値上がりしたこととなるため、地域の住民の皆さんにも喜ばれています。

また人口も「安全・安心のまち」ということで増えています。何とんでも「明大前駅」の一日の乗降客数がこの10年間で3万人増えました。京王線53駅の中で、この10年間で乗降客数が増えたのは明大前駅だけです。商店街もこれによって、当初の目標以上に潤っているという結果が出ております。

私どもの活動は、当初10人で始めた訳ですが、その後はずっと45人体制、そして発足10年目以降のこの2年間は57人に増えています。夜間パトロールの出動回数も土曜日には3つのパトロール隊が出るほど充実しております。青パトの日本財団からの贈呈第1号も明大前ピースメーカーズでございます。こうした活動が12年間も続いたのには、ちょっとした仕掛け、秘訣がございます。そのことについては、後段のパネルディスカッションでご披露できればと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

(以上)